

## 「抗疲労」ビジネスを促進

### 市場創出目指す取り組み、大阪で活発

「抗疲労」や「癒し」を切り口とした製品やサービスの開発を促進させ、市場を創出しようとする取り組みが大阪で活発化している。

大阪市経済局の中小企業支援拠点「大阪産業創造館」では、抗疲労・癒し製品の開発やエビデンス取得を目指す大阪市内に本社、事業所がある企業を対象に、大学や研究機関のマッチングを無料で提供している。また今年四月には「疲労バスターズ」を発売。こちらは全国の研究機関、企業などを対象に会員を募集しており、情報、研究機関・企業のマッチング、Webサイ



トでの商品紹介、交流会といったサービスを提供する。同館新産業創造推進室、健康・予防医療プロジェクトリーダーの武坂寿夫氏は「大阪市内の取り組みについて、大阪府立大学の二十世紀COEプログラムでは疲労に関し

世界でも先端の研究を行っている。研究成果を大阪市内の企業などと結び付け、大阪発で世界へ発信していければ」とコメント。また、「大阪発の新しい産業として打ち出し、市場を作り上げていきたい」という。

また、大阪府・大阪医師会、大阪大学、在阪企業などで構成する「大阪健康サービス産業創造協議会」はこのほど、「癒し快適エビデンス評価・支援センター事業」を開始した。食品、医薬品以外の健康関連製品の「癒し」や「快

適」の効果を科学的に評価し、「癒し快適エビデンス推奨マーク」などを発行する。第一号認定はシャープ製のエアコンで、「家電版トクホ」として話題になった。

同製品は体温低下を制御し血流を維持する「つつみ込む気流」という特徴がある。同製品を臨床的に評価した大阪・豊中市の総合医研クリニック院長の西谷真人医師によれば、「医学的有用性を特に『癒し・快適』という側面から評価した」という。具体的には、「精神疲労負荷後の回復過程での、VAS法による『疲労感』、『快適感』などの評価の他、低下した末梢血流量の回復や疲労・癒しに関連する生化学マーカー（唾液・尿な

どを評価した。また、器機の臨床を担当したことについて、「食品同様、エアコンなどの日常生活用品も、我々が長期間使用するものであり、健康状態にも少なからず影響を及ぼす。今回の製品のように、健康をサポートし得る商品の医学的有用性を、データで実証することは非常に意義ある取り組みだと思ふ」と語った。

#### 総合医科学研究所

食品CROの㈱総合医科学研究所（大阪府豊中市）では、疲労プロジェクトなどを通じて開発した、抗疲労に関する評価系や蓄積したノウハウを、トクホを中心とした食品評価だけでなく、器機などにも応用する取り組みを始めている。最近、「家電版トクホ」などとして話題となった大阪府を中心とするOH

#### 「疲労」研究から「癒し・快適」の臨床評価にも発展

は「器機メーカーは自社製品の臨床エビデンスを着実に構築していくという姿勢がある。一側面からの臨床的評価にとどまらず、多方面から評価を進め、総合的に医学的有用性を実証していくことが多い。当社としても、これまでの食品臨床試験のノウハウや抗疲労研究からの知見を、器機の臨床評価など他の分野にも活かしていきたい」という。

同社の西谷真人取締役